



2026

今年もよろしくお願い申し上げます

理事長挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、皆様からの温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。会員の皆様、関係者の皆様、そしてご家族の皆様のご協力のおかげを持ちまして、各セクション充実した一年を送ることができました。ありがとうございました。

ぱれっとの事業も43年目に入りましたが、今までの事業の中でも大きな転換を迎えた年でした。【緊急一時保護事業】の渋谷区との委託契約解除、そして【障がいのある人とない人が共同生活するための事業】「ぱれっとの家いこっと」が15年の歴史に幕を閉じました。いこっとサポートの会のメンバーと幾度となく話し合いを重ねてきました。「共に暮らす、お互い支え合う」という理念の追求と経営の両輪に抗い続けてきましたが、継続していくことは困難という苦渋の決断をしました。同時期に、31年間運営を続けてきたえびす・ぱれっとホームの建物の耐震性と老朽化の問題も浮上し、解決策としていこっとの建物をグループホームに転換することでえびす・ぱれっとホームを移転する決意をしました。

グループホーム常勤職員として外国の方の雇用も初めて行ないました。人材確保が進まない中、人材紹介会社にかける経費を抑えるべく試行錯誤の連続です。支援への情熱のある方で、語学のスキルアップに日々精進している姿が現れてきています。

昨年の理事会では、ぱれっと全体の運営の振り返りとしてコンプライアンスと人材育成に特化した話し合いを行なってきています。具体的には、働くスタッフが安心して組織に委ねられるのか、働き続けられる持続可能な組織づくりができるかなど、人事労務や組織マネジメントに精通した専門的な知見をお持ちの理事の方と個別に会議を持ちながら、組織変革に向けた動きをしてきています。NPO組織に代わり23年、それまでの民間団体としての19年よりも長くなりました。改めて組織基盤が盤石なのか、コンプライアンスの意識は高く維持されているのか、あたり前に行なわれている一般的な会社組織運営と同様、ガバナンス強化がなされるよう理事会運営を行なっていく方向でいます。

未だ様々な問題・課題が山積しているぱれっとですが、一番大事にされることは利用者の方たち一人ひとりに自分らしく安心して過ごせる環境が提供できることだと考えています。スタッフ一同今年もしっかり取り組んでまいります。皆様にとって、健康と幸せに満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

(認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭)





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局▶

あけましておめでとうございます。昨年事務局では、大きな出来事として、作業所の利用者を含めた出勤退勤の管理について全面的にITを導入、加えて長年使用してきた会計システムの移行を進めてきた1年でした。「NPO会計基準」と「社会福祉事業会計」というふたつの軸を基本とするぱれっとにとって、これは大変大きな変更であり、想像以上に時間とコストを要したというのが正直な感想です。最終段階ではありますが、完全移行には至っておらず、今年度の決算を新システムで行なえるかどうか、あと数か月の取り組みの中で挑戦が続きます。一方でこのシステム導入のプロセスで労働環境整備等について新たな学びもあり、さらには事務局が中心となって、社会保険労務士事務所との顧問契約を結び就業規則など諸規定の見直しも行ないました。スタッフが安心してその力を発揮できる環境を整えることは、質の高い組織運営とより良い福祉サービスの提供のために必要不可欠であると改めて実感しています。国の制度見直しが続く中、こうした取り組みに終わりはありません。本年もよろしくお願ひいたします。

（事務局長 南山達郎）

たまり場ぱれっと▶

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。昨年2025年はいくつか小さなチャレンジを行なった年になりました。一つは以前たまり場ぱれっとの活動として行なっていた紳ミニーティングをリニューアルして、新しく「しあわせミニーティング」を始めました。まだまだ摸索中な活動ですがこれからも参加者のやりたいことや今後のぱれっとの活動を話し合いの中で決めていく時間にしていきたいと思います。もう一つは、宿泊行事を例年大型バスを1台借りて実施していましたが、昨年は電車での1泊2日の旅行を企画し長瀬の自然を感じるプチバカンスとなりました。

また、以前運営ボランティアとして参加してくれていた方が約20年ぶりに活動に来てくださり、久しぶりの再会や交流を楽しむ様子が見受けられていきました。当時から参加してくれている方がいて、長年変わらずにあるぱれっととまた会えて共に時間を過ごすことができる場所があることに意義を感じています。2026年も少しチャレンジをしつつ、変わらずにたまり場ぱれっとの活動を邁進してまいります。

（職員 武井琴美）

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと▶

明けましておめでとうございます。昨年を振り返ると、まずは作業場所をぱれっとビル2階にも分散したことが挙げられます。メンバー達が本来持っている力を發揮しやすい環境に整えられました。通所員ミーティングや親の会、事務局会議で議論していたことが1つ形になった達成感と、トライ＆エラーを繰り返してより良い形を摸索していく姿勢を皆で共有できたことは大事な成果でした。他にもくみん祭りやプチレクで親の会と共に手探りで新しいことに取り組んだり、メンバー達もそれぞれ作業の中で以前にも増して新しい

チャレンジをしたりと変化が見られました。最近よく考えるのは、誰にでも「失敗する権利」があるということです。上手くいかなくても、トライしたことで見える事やその過程に価値がある、失敗してもやり直せることを保障されることで前進できる、それは障がいがあってもなくても皆同じです。それを見守り支えることは、時には勇気と根気のいることかも知れませんが、この場所も安心してトライ＆エラーができる場所でありたいと思っています。今年もよろしくお願ひいたします。（所長 玉井七恵）

えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

新年のご挨拶を申し上げます

昨年は、グループホーム運営にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。お蔭様で入居者の方たちは落ち着いて充実した日々を過ごすことができました。えびす・ぱれっとホームの移転や緊急一時保護事業の閉鎖という大きな出来事はありましたが、入居者たちは、建物や部屋が綺麗になり、階段も屋内になったことで大変喜んでおります。元々「いこっと」にお住まいだった男性陣2名が加わり、新たに1名女性が入居することで、7名フルで活気溢れるえびすとなっています。しぶやも8名満室、外国人スタッフや新しいアルバイトの方も充実しております、人員体制は改善されつつあります。ホームでの行事、お出かけや買い物などの移動支援、歌のお稽古、カラオケやプール・バドミントン・スーパー銭湯めぐりなど、メンバーそれぞれの余暇活動も満喫されており、豊かな生活を送られています。スタッフ一同、入居者の方の安心安全な暮らしに尽力するよう今年も取り組んで参ります。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

（施設長 相馬宏昭）

ぱれっとインターナショナル・ジャパン（PIJ）▶

新年のご挨拶を申し上げます

昨年11月末の豪雨により、スリランカで甚大な被害が島全体に及びました。9月に研修で来日したサハンセバナのスタッフやメンバー家族は全員無事でしたが、キャンディーなどの中央部山岳地帯や北東部に甚大な被害を及ぼしました。一日も早い復興を願っています。

サハンセバナではグループホーム（GH）の必要性が高まり、9月にスタッフ2名を研修目的で招聘しました。渋谷区内のGH見学やGHそのもののコンセプトを学ぶ機会を設けました。ぱれっと親の会に参加し、実際にGHで生活している通所員の変化や成長、その家族の思いや意見を聞くなど、帰国してからメンバーや家族に報告する上で大変貴重な経験ができました。

ネパールのNGO団体、PCBRのクッキープロジェクトは少しずつ活動を進めてきています。しかし、ろうそくやビーズ作業といった、食べ物以外の製造が混在した環境に対し政府から許可が中々下りない状況です。昨年春、会員の皆様から頂きましたご寄付からエアコン設置費用40万円を贈呈しています。本年も、サハンセバナのGH事業に協力する予定であります。PIJ事業へのご理解とご支援をどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

（代表 相馬宏昭）

※ご協力お願いします！ 【ピースワインズジャパン スリランカサイクロン緊急支援】 ▶

<https://readyfor.jp/projects/SriLanka-cyclone>

